

株式会社ハートコンピューター：「会社の安全」を守る

■ 会社概要

企業名：株式会社ハートコンピューター 資本金：1,300万円
所在地：滋賀県長浜市 業種：酒造メーカー専用ソフトウェア開発
従業員数：約30名 保険：事業活動総合保険

◇なぜ防災・減災に力を入れるようになったのか

酒どころ東北には酒蔵も多く、顧客から東日本大震災の被災体験を聞く機会があったため、元々社内の防災意識は高かった。中でも総務部は、「会社の安全は私たちが守る」という意識を常に持っており、総務部から始まった防災の取り組みは、社長の後押しもあり、今では会社全体・グループ全体に広がっている。

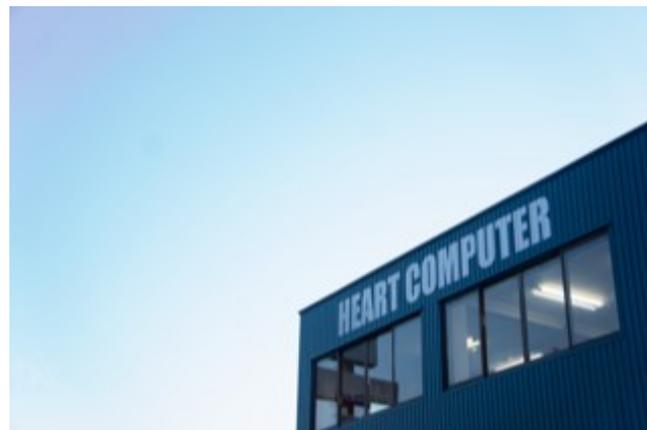
◇どのような備えをしているか

・IT企業らしく重要情報をクラウド化しているほか、浸水に備えて重要機器やデータを2階以上に配置換えするなど工夫している。また、社内グループウェアを活用した情報収集・発信や安否確認も行っている。

・「ハートコンビニ」は、社内の非常用備蓄品コーナーを社員向けコンビニとして開放した。社員は100円程度でカップ麺や飲料などを購入することができ、夜食にも利用。日頃から備蓄品を循環させることで、賞費期限切れとなりにくく、豊富な種類の食料や飲料を揃えることができる。全社員が数日会社に寝泊まりできる量を確保し、医薬品、懐中電灯、携帯ラジオ、メガホンも常備している。

・避難訓練は年2回、隣接企業と合同で実施。消防の協力を得て地震体験車で揺れを体験したり、防災ボランティアの講演を盛り込んだりと、社員の防災意識を維持できるように総務部では毎回工夫を凝らしている。

・グループ会社が被災した場合に人員を派遣できるよう、日ごろからクロストレーニングを行っている。その結果、繁忙期のヘルプも可能となり、グループ全体がより柔軟な体制となった。



画像：株式会社ハートコンピューター 本社

◇2022年8月長浜市豪雨ではどのような対応を行ったか

・当日朝から災害対策本部を立ち上げた。高時川の氾濫や道路の冠水等の被害がニュースで流れ、社員を帰宅させるかの判断に迷ったが、IT企業ならではの素早い情報収集で現状を把握し、自宅を気にする社員に天候が落ち着くまで帰宅は見合わせるよう指示をした。その際、「ハートコンビニ」に飲食物等が備蓄してあることも、会社での待機を可能とした。

・災害対策本部では、同社のグループウェアにて掲示板を立ち上げ、集めた情報や会社からの指示をリアルタイムで発信し続けた。情報を掲示板で集約・共有できたため、社員は混乱することなく通常業務を継続することができた。この掲示板はケータイからも確認可能で、外出中などPCを立ち上げられない状況下でも手軽に情報共有することができる。

・幸いにも同社及び同社社員・家族に被害は出なかったものの、折しも事業継続力強化計画の認定を得て間もなくの災害発生であり、事前に策定した計画が早々に役立つ形となった。